



プロフィール

1967年仙台二高卒業、1972年に宮城教育大学卒業、1977年に東北大学大学院教育学研究科を単位修得退学し日本学術振興会奨励研究員に採用。1978年教育学部助手から講師・助教授を経て1994年教育内容講座教授、2000年大学院教育学研究科の教授学習科学講座教授、2008年教育設計評価講座教授。この間、1989年に論文「近代日本教員養成の確立過程」で教育学博士号を取得。1992年に北京大学と北京師範大学で在外研究。学内役職では2度の大学評議員、2006年より総長特任補佐、2007年度より教育学研究科副研究科長。受賞では、2004年東北大学の教養教育「自分」で総長教育賞、2007年東北大学男女共同参画奨励賞。学会活動では日本教師教育学会、日本教育学会、日本教育方法学会の理事及び東北教育学会長と日本カリキュラム学会代表理事を歴任、社会的には学校ボランティアを組織し、日本学術振興会や行政の各種委員を務めています。

研究内容

◇教師養成、カリキュラム編成の課題を追求

『自分—私がわたしを創る—』（東北大学出版会 2001年）、『自分—私を拓く—』（同 2003年）、『自分Ⅲ—わたしから私たちへ—』（同 2004年）の3部作は、東北大学の教養教育の授業「自分」を記録したものです。初年次学生を対象に、自分を見つめ人生を語り合う授業を展開し、2004年に総長教育賞を受賞しました。NHKの「クローズアップ宮城」（2002年）では「自分」の授業が放映され、日本教育学会でも「自分」の論文が掲載されました（2006年）。さらに学生参加型の授業創りに挑戦し、『学校を考えるっておもしろい!!—TAととも

に授業を創る—』（東北大学出版会 2006年）もまとめました。

私の本来の研究は、優れた教師を養成するにはどうしたらよいか、学校のカリキュラムはどのように編成すれば良いかという課題で、小中高と教員養成大学のカリキュラムを分析しています。その研究成果は『近代日本教員養成史研究』（風間書房 1990年）、『近代日本カリキュラム政策史研究』（同 1997年）、『現代日本の教育課程改革』（同 1992年、中国語版 中国・教育科学出版 2005年）、共著『新しい時代の教育課程』（有斐閣 2005年）です。



(1) 総長教育賞の授業「自分」



(2) 主要な出版図書

メッセージ

◇悩みは自分との戦い。それを人生の糧にしてほしい

青年時代は、恋愛や勉強をはじめ人生の失敗と挫折が多いものです。私の場合は大学受験に失敗し恋愛にも失敗したことで勉強とマラソンにかりたてられ、しだいに研究に没頭することで、遂には本物の研究者になってしまいました。

いかにもまっしぐらに研究者になったようですが、決して順調ではありませんでした。当時は絶望して人生の意味が見いだせず苦しかったものですから、沢山の本を読んだり、思想グループやサークルの合宿に参加したりしました。今にして思うと異性関係も含めて大変危険な状況にありましたが、貴重な人間研究になりました。

20代の自分は存在するに値しない価値のない人間ではないかという恐怖感にたびたび襲われましたが、人生の危機においては両親や妹弟の顔が浮かび、それが崩壊しそうな自分を支える力になりました。

そんな暗いトンネルから抜け出したのは、学会誌に論文が掲載されることになった29歳の時でした。実は、これからが研究者としての本格的な悩みの時代に入りますが、博士学位論文を書き上げた時は40歳になっていました。

青春時代の悩みは結局自分との戦いです。若い人はそれを人生の糧にして自分自身に負けないように生き抜いてください。